

まえがき

本論文集は3年継続として現在実施中の特定研究2年目の報告書である。本58年度の報告書(信州大学環境科学論集 通算第6号)も会員による23編の貴重な報告がよせられ、総合的な環境科学分野における数少ない論文集として学内外で評価されて来たことは喜ばしい限りと考えている。

本年度はこれと並んで、昨年度予算の都合で実現できなかった環境科学に関係する本学研究者の名簿を発行することができた。これは「信州大学環境科学研究者名簿」(第6号 別冊)として各位のお手元にとどめていることと思う。かなりの労力を要する作業であったが、これも今後本学における環境科学分野の研究推進の基礎として重要な資料になるであろう。

時あたかも信州大学では大学院総合研究科の構想が学長のもとで検討され、徐々にではあるがその内容も具体化して来ている。総合研究科構想の中には生活・環境科学専攻がその一つとして挙げられており、すでに5つの大講座名と学問分野、内容が整理されているが、これらは本懇談会のこれまでの地道な活動実績に負う所が多い。

昭和53年度からの特定研究による本懇談会活動が本学大学院総合研究科の一つの柱として発展し具体化することになれば、これに過ぎる喜びはない。

最後になったが本懇談会の設立、運営に対して、終始適切なお指導と絶大なお力添えを戴いた理学部 倉沢秀夫教授が本年3月31日で定年で退官されることになった。先生のご厚情に深く感謝申し上げますとともに、これから益々のご活躍、ご健康を切にお祈り致します。また先生には長年にわたる研究生生活の総編輯ともいふべき貴重な2編をお寄せ戴いた。あわせ記してここに厚くお礼申し上げます。

信州大学環境問題研究教育懇談会

座長 釘 本 完

(昭和59年3月27日)